校長室だより～燦燦～ №５４６

半径５メートル

2022.5.2

「半径５メートル」というタイトルのテレビ番組があった。失態を演じ、異動になった週刊誌の女性記者がベテラン名物女性記者とバディを組み､記事にもならないような女性たちの身近な問題、いわゆる「半径５メートル」における人間模様を伝えていくさまを描いたものである。

学校の先生の仕事には、様々な教育課題が山積しているが、生徒にどう寄り添うか、半径５メートルの関わりがとても大切である。多くの教員は、生徒や保護者、他の教員との関わりの中で、教員としての資質や能力を高めていく。

先生方には、生徒に寄り添い、その生徒のよいところを見つけ、それをもっと伸ばす指導をしてほしいと願う。自分ができていたというわけではない。きっと、生徒のよいところを見つけ、伸ばそうと先生方が考えるときこそ、教員が成長するチャンスなのである。

先生方の多くは、半径５メートル以上を得意にしているように感じる。逆に半径５メートル以内となると、どうであろうか。得意な方とそうでない方に分かれるように思う。あるいは、得意な方などいないのかもしれない。

得意なように見える先生ほど、「これでいいのだろうか」「もしかしたら間違っているかもしれない」と思い悩みながら生徒と接しているのではなかろうか。今の時代、半径５メートル以内でやっていけないと、かなりつらい。

昨年から、毎朝、学校の入り口に立っている。ある実験をしたことがある。道路を挟んで私と反対側を通っていく生徒は、私から５メートル以上の距離がある。挨拶をする生徒としない生徒に分かれる。こちらとしては、当然、挨拶をしてほしい。

ある雨の日に、学校の入り口ではなく、昇降口に立ってみた。私の前を通過していく生徒との距離は５メートル以内である。ほぼ１００％の生徒が挨拶をしていった。ということは、挨拶をしない生徒がいるのではなく、５メートル以上離れると、私の存在を挨拶の対象として認識しないのではないか。そう考えるようになった。

もう一つわかったことがある。生徒は、外にいるときよりも、校舎内での方が挨拶をするということである。５メートル以上離れた学校の入り口では挨拶をしない生徒も、校舎内で私とすれ違うときには、必ず挨拶をする。

私の方から生徒との距離を縮め、半径５メートル以内をつくればいいのである。それが、今年度の課題であり、自分に課した宿題でもある。そして、先生方以上に思い悩みながらも、生徒のよいところを見つけていきたい。